

風

かぜ

カゼ

2005.4-17 No.80

◇あたりまえ

悪性の腫瘍が原因で若くして亡くなられた医師井狩和清氏が亡くなる二週間前にノートに書き遺された詩があります。『あたりまえ』こんなすばらしいことを/みんななぜよろこばないのでしょう/あたりまえであることを/お父さんがいる/お母さんがいる/井狩氏は医者であっただけに誰よりも癌の恐ろしさは認知されていたらうと想像されます。一日一日と死期の訪れを知らされる中、奥様と一人娘に生命の尊さと、生きてゆく素晴らしさをノートに書き綴った最後の頁に『あたりまえ』の詩が結びとして書き留めてあったと新聞に報じられていました。三十二歳の和清さんにとっては、ご両親が健在であることは、ある意味では「あたりまえ」「当然」であるのでしょうか、井狩和清さんには「あたりまえでない」中での「あたりまえ」であったのでしょうか。重く、厳しく、そして温かい心の叫びと受け取らせていただきます。

◇総永代経法要は5月10日（火）です

法要はPM1:00からです。安楽寺にご縁のある方のご法要です。都合をつけお参り下さい。ご法話は竹岡先生です。お待ちしております。

◇今月の安楽寺伝道掲示板

生まれてきたことに
打算はなかったはずなのに
損得ばかりの わが人生

〒105-0014

東京都 港区芝1-12-18 安楽寺

03-3451-1509